

第3部 希望の家の運営

I 令和6年度事業総括

第1 課題及び基本方針への対応

調布市希望の家は、開設から50年近くがたち、初期から在籍されている方々は本人、家族ともに高齢となっています。令和6年度において、複数の利用者が病気によりお亡くなりになりました。利用者本人の不調以外にも、介護をする家族の病気やケガ、認知の低下などによって、ケアがままならなくなったり、施設とご家庭との意思疎通がうまくいかなかったりしているケースもあり、それぞれの状況に合わせた生活支援、個別ニーズに応えるサービス提供を心掛けました。

また、近年、希望の家は支援区分重度の方や強度行動障害のある利用者が増えており、支援する職員には高い専門性が求められています。令和6年度はじめて外部の専門家を招いたコンサルテーションに取り組み、安全安心の施設運営を目指しました。

第2 重点項目の総括

1 個別支援・日中活動の充実

意思を汲み取ることが難しい方も多いのですが、ご家族や関係者と連携しながら、本人の思いやニーズを日々の活動や支援に反映できるよう努めました。調布市が取り組むeスポーツを活用した地域活性化事業に参加し、希望の家3施設間のみならず市内の高齢者や青少年の交流拠点とオンラインゲームで対戦するなど、あらたなプログラムも取り入れました。

また、年度末には数年ぶりにボーナスという形で工賃をお渡しすることができました。調布市希望の家では、働く喜びを実感していただくことを目的に、支給されたボーナスで好きなものを購入したり、飲食したりする外出活動を併せて実施しました。希望の家深大寺ではボーナス支給とともに、敷地内でのバーベキューを楽しみました。

2 第三者評価の受審

3年に1回の第三者評価を受審しました。第三者評価事業者により、経営内容、サービス提供について利用者、家族、職員への聴き取りやアンケート調査、現地視察が行われ、客観的な助言や指摘をいただきました。評価結果についてはウェブサイトで公開されています。

3 職員の支援力の向上と労働環境の整備

外部の専門家によるコンサルテーションでは、座学研修を計4回、OJTを毎月1回受けました。アクティビティシステムの導入により、支援の構造化、施設内の構造化を進めることが可能となり、利用者にとっても職員にとっても見通しが立った安心できる空間づくりにつながります。知的障がい、自閉症の専門施設として新たな一步を踏み出すことができました。

II 個別事業

第1 調布市希望の家の運営

番号	事業名	財源			
		自主 寄他	補助	委託 市	利用 ○
(1)	調布市希望の家運営受託事業				○

結果の概要

- 長い歴史のある調布市希望の家で、利用者の高齢化が進み、病気により逝去されるケースがあった。親の高齢化もあり、体調変化、早期の病気発見と診断、治療など、家族（親や兄弟姉妹）、医療機関、福祉の支援機関、それぞれと連携を深めることを確認した。
- 自閉症・強度行動障害者支援の専門家によるコンサルテーションを受け、日ごろの支援の在り方を再構築し、職員全体の支援の質向上に努めた。
- 行事はコロナ禍以前と同様に実施した。「地域のつどい」に変わる、新たな地域向け行事として「工作教室（くるくる希望の虹作り）」を初めて開催した。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者及び家族との面談・自宅訪問・電話連絡等を行い、相互に理解をして、より良い関係性が利用者にとってさらに安心できる支援になるように努めた。
- 施設内での活動、外出時にも、常に安全面に配慮し、些細なミスや事故・ケガを防止しながら、安心できる状況や環境に配慮をした。

1 利用人数

結果の概要

- 調布市希望の家は利用者 24 人→23 人。利用者 1 人が病気により逝去した。
- 調布市希望の家分場は年度当初は利用者 10 人であったが、2 月に 1 人が逝去、1 人が施設入所により退所されたため、利用者が 8 人となっている。

実績等

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
調布市希望の家	利用人数(人)	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	287	23.9
	開所日数(日)	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	243	20.3
	のべ出席人数(人)	441	433	427	429	405	389	446	388	394	364	365	398	4,905	408.8
	出席率(%)	88	86	89	86	80	85	84	81	82	80	84	87		84.4
調布市希望の家分場	利用人数(人)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	119	9.9
	開所日数(日)	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	243	20.3
	のべ出席人数(人)	190	201	186	182	147	143	187	148	152	145	132	156	1,969	164.1
	出席率(%)	90	96	93	83	70	75	85	74	76	76	73	87		81.7

利用者年齢構成等（令和7年3月31日現在）

年 齢	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
	男	女	小計	男	女	小計	合計
～19歳	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
20～29歳	7人	3人	10人	0人	2人	2人	12人
30～39歳	6人	0人	6人	2人	1人	3人	9人
40～49歳	0人	0人	0人	1人	0人	1人	1人
50～59歳	3人	0人	3人	1人	0人	1人	4人
60歳～	0人	4人	4人	0人	1人	1人	5人
計	16人	7人	23人	4人	4人	8人	31人
平均年齢	33.5歳	49.7歳	38.4歳	44.5歳	35.0歳	39.7歳	38.7歳

利用者障害支援区分構成（令和7年3月31日現在）

障害支援区分	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
	男	女	小計	男	女	小計	合計
区分1～2	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
区分3	0人	2人	2人	0人	0人	0人	2人
区分4	1人	0人	1人	2人	0人	2人	3人
区分5	9人	2人	11人	1人	2人	3人	14人
区分6	6人	3人	9人	1人	2人	3人	12人
計	16人	7人	23人	4人	4人	8人	31人

※内、重度支援対象者2人
 ※内、重度支援対象者12人
 ※内、重度支援対象者9人
 ※平均支援区分5.2

2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

- 各教室活動や作業療法活動等、専門講師による活動を継続的に行い、体調や体力の維持、集団やグループで行うことの楽しさを体感した。
- 健康維持のため、定期的なラジオ体操や室内運動、ウォーキング等の運動の機会を提供した。
- ハロウィンや節分などの季節行事は、衣装などが日常とは違う楽しさもあり、スイーツも食べるので、多くの利用者に笑顔が見られた。

実績等

定例活動	回 数／内 容
体操（ダンス）教室	本場：月2回・2時間（30分間×4グループ）／ストレッチや筋トレが中心で、体力や年齢を考慮したグループ編成で行っている 分場：月1回1時間／前半にストレッチ、後半にダンス等を行っている。
水泳教室	分場：希望の家深大寺の水泳教室に少人数ずつ、交代で参加した。
音楽教室	月1回・1時間

ジャンベ教室	月2回・20分／打楽器の演奏
作業療法活動	月1回・1時間程度／作業療法士による運動機能維持等の活動
体操	本場：週1回（ラジオ体操） 分場：毎日
ウォーキング	不定期・1時間～1時間30分
フィットネス	本場：週2回／ウォーキング・サーキットトレーニング 分場：週1回／輪投げ、ボール投げ、マット運動等

イベント活動	実施日／内 容
日帰り旅行（バスハイク）	10月18・25日／2回に分け、東京湾のランチクルージング、葛西臨海公園に貸し切りバスで行った。
リフレッシュ活動	少人数のグループに分かれ、外食を伴う外出活動を行った。
運動会	10月11日／パラスポーツセンターにて福祉作業所等連絡会の運動会に参加
音楽鑑賞会	11月8日／プロミュージシャンによるサクソとアコーディオン演奏
年度末お楽しみ企画	本場では利用者に工賃一時金(3,000円)を支給し、イトーヨーカドー国領店にて、自由に飲食や買い物を楽しんだ。 分場では近隣の喫茶店「ラッキー笑店」でスイーツと飲み物を楽しんだ。
季節行事および出前給食	奇数月に出前を注文し、季節行事ではスイーツを買いに行き、皆で食べる機会を作っている。

分析・課題

- 本場では利用者の年齢層が20～70歳代の幅の広さがあり、人数も多いので、年齢や体力の違い、特性や相性に合った利用者のグループ編成をしている。
- 体重増加や運動不足による筋力低下となる利用者が多い傾向にある。各教室のほか、室内で行う短い時間のウォーキング、サーキットトレーニングなど、運動の機会を継続する。
- 少人数グループでの1日外出「リフレッシュ活動」を行い、行き先は複数の候補から、利用者が選択できる工夫をしている。

3 生産活動

結果の概要

- 企業の受託作業は、これまで同様、榮太樓総本舗の和菓子梱包、六和精工の部品等をビニール袋に入れる作業等を受注している。
- 自治体からの古紙回収・公園清掃等は継続し、作業所等連絡会の共同受注によりポスティングも定期的を実施した。
- 自主製品の販売機会は、イベント等で継続している。また、利用者の絵や文字を取り入れた「名刺作成」も継続し、徐々に拡大している。
- 地域の団体からは、引き続き、フードバンク調布より食品運搬業務の受託、学生服のリユースを行っている「さくらや」から、学校ジャージの刺繍取り作業を不定期で対応している。

実績等

企業等からの受託	和菓子の箱詰め、部品等の袋入れ、学校ジャージの刺繍取り作業、ゴルフボールの削り
----------	---

自治体からの受託	古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	公園清掃、ポスティング（ふくしの窓、じょいなす、ごみカレンダーはR6年度に限って中止）
手作り品製作販売	織物、刺繍、アクセサリ、レターセット、名刺等
常設委託販売先	総合福祉センターの1階
イベント販売	福祉まつり、社協の小地域交流事業のイベント、近隣地域の他団体のイベント等で販売

分析・課題

- 室内作業の「榮太樓」「六和精工」は繁忙期と閑散期があり、企業とも相談しながら、作業が欲しい時期は要望し、作業が多すぎる時期は、受注量の調整、納期の延長など、柔軟に相談できる関係性を作っている
- 収益ではない作業「自立課題」も毎日、継続的に行い、提供できる種類を増やしている。利用者個人が自分から始めて、終わることができる課題があることは、自身の達成感を得る効果がある。

4 昼食提供

結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食を提供している。肉禁やアレルギー食、きざみ食等、個別の対応も行った。（自宅より持参の弁当も可能）

実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食。
出前注文	約2ヵ月に1回、市内店舗より、さまざまな出前昼食を注文。
カレーの注文	月1回、市内店舗よりカレーを注文。

分析・課題

- 利用者の健康状態に応じて、その都度食事形態を変更した。
- 出前注文により、普段とは違った食の楽しみを得る機会を設けた。

5 健康診断、健康管理

結果の概要

- 健康相談と合わせて問診（本場7回・分場3回）を実施し、健康診断の結果から医師のアドバイスを聞き、利用者・家族と情報を共有した。
- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、連絡帳で家族へ伝え、年間を通しての利用者の推移を共有した。
- こまめな手洗いの継続、毎日の検温、加湿・室温管理・換気等を行った。
- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、歯科医師のアドバイスを聞き、利用者・家族と情報共有した。

- 災害時に備えて、1日分の薬を予備薬として預かっている。
- 体調の変化がある際には家庭やグループホームと情報共有に努めた。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断（多摩川病院）	5月30日／施設内で身体測定、検尿、胸部X線、視力、血液検査、HBs 抗原抗体検査、HCV 抗体検査、クレアチニンを実施。40歳以上を対象に、眼底、心電図、腹囲検査を実施。 6月3日／40歳以上を対象に通院し、骨密度検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定（看護師）	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種 本場：10月29日 分場：11月11日
歯科健診（調布歯科医師会）	本場：7月12日 分場：7月2日
聴診、健康相談（嘱託医）	本場年7回・分場年3回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談及びアドバイス

分析・課題

- 高齢化や重症化リスクの高い利用者が多いため、引き続き感染症対策を行っていく必要がある。
- 家族との面談時や連絡のやりとで、家族が主治医から受けたアドバイスや服薬調整を聞き取り、職員チーム内でも共通理解をはかる。また、施設内でも細かな変化を職員から家族へ伝え、病気の早期発見・診断につながるよう取り組む。
- 毎月の健康チェックや健康診断結果から、過去との比較や数値化したものを家族とも共有し、生活習慣病等の予防のため共通理解をはかる。

6 当事者活動の支援

結果の概要

- 利用者、家族の当事者活動を支援し、その意見を施設運営に反映するよう努めた。
 - *利用者自治会（利用者で構成する会）
 - 月によって、オンライン開催と集合型の開催を併用し、3施設の活動報告や、情報交換や交流する場となった。利用者自治会長は運営委員も担っている。
 - *家族連絡会
 - 当事者主催による家族会と並行して集合型で開催した。施設からの近況報告等を行った。
 - 家族会主催の学習会や各種案内等の配布・出欠集約を行った。

実績等

団体名	回数／内容
利用者自治会	月1回（3施設合同）／行事や活動の報告・計画等
家族連絡会	年2回／情報交換、意見交換等

分析・課題

- 利用者自治会については、オンライン開催と集合開催、双方のメリットを使い分けて行う必要があり、集合開催の場合、開始時間、参加人数、車の台数の調整が必要となる。
- 施設側の発信である「家族連絡会」と家族の自主組織である「家族会」を前半後半に分けて開催し、家族とも顔の見える関係で、話し合う機会を持たせた。災害時BCP計画の内容検討を行う等、今後、より家族と連携・協議する場としていけるよう、家族の参加率を高めていく必要がある。

7 送迎事業

結果の概要

- 自力での通所が困難な利用者を対象に実施した。新たに送迎の希望が出た場合への柔軟な対応、待ち合わせ場所や時間への細かな配慮を行った。
- 利用者の体調や安全面を考え、乗降時の順番や見守りのサポートを丁寧に行った。
- 配慮を要する利用者やショートステイを利用する際に個別送迎を実施した。
- 利用者に怪我はないが、物損事故が何件か発生した。

分析・課題

- 引き続き利用者の特性や相性等を考慮した組み合わせでの運行が必要である。
- 運転手、添乗員が協力し周囲の状況を把握しながら事故防止に努めることが重要。

8 運営管理業務

(1) 苦情や要望の受付と問題解決

結果の概要

- 第三者委員2人と苦情受付担当者1人、危機管理責任者1人を置いて相談窓口とし、苦情・要望への相談対応や問題解決に努めた。
- より良い施設運営に向けた取組として、毎日の振り返り時に出しあった意見（ヒヤリハット等）を「気付きメモ」として記録し、第三者委員会に向けて分析を行った。
- 効果的だった支援や利用者の成長が感じられた場面等の「にやりほっと」についても記録を残し、ポジティブな内容も共有していった。

実績等

- 第三者委員会を10月、3月に実施。事業実施状況、第三者評価結果の報告、事故・苦情や気付きメモの報告を行い、課題解決に向けて意見交換した。気付きメモの報告については、代表的な事例や、特に重点的に取り組んだ事例について発表し、具体的な支援状況も共有したうえで意見を頂いた。委員からの助言も頂いた。

分析・課題

- 第三者委員より、以下のような意見を頂いた。
 - ・職員が感じる現場での違和感等の声を運営に取り入れる工夫が必要。また、ハラスメント対応や本音を話せる環境整備を通じた心理的な安全性の確保が重要である。

- ・利用者の状況を客観的にアセスメントし、先入観なく可能性を伸ばす視点、および予期せぬ行動への柔軟な備えが求められる。非言語的なコミュニケーションや視覚的な支援も有効。
- ・車両運行の安全性の向上にむけて、運転手がより注意深くなる必要があるのと同時に、仕組みとして事故を減らすことができる業務構造の改善についても検討する必要がある。
- ・第三者評価について利用者・家族から率直な意見を引き出すための調査方法の再検討が必要。

(2) サービス評価

結果の概要

- 3年に1度の外部機関（株式会社日本生活介護）による第三者評価を実施した。
- 評価結果については、運営委員会・第三者委員会・家族連絡会での報告、家族への書面での報告、及び職員向け報告会等で共有し、意見交換を図った。

事業評価

項目	内容
利用者聞き取り調査	調査員による利用者本人への聞き取り
家族アンケート調査	家族へ書面によるアンケート調査
職員自己評価	書面による職員の自己評価
経営層自己評価	書面による経営層の自己評価
訪問調査	評価項目に沿った資料確認および経営層への聞き取り

分析・課題

- 評価機関からの評価講評において、さらなる改善が望まれる点として複数の意見をいただいているので、そのことを踏まえた取り組みをしていく必要がある。
- 評価を受けただけにならぬよう、上述の改善点や各調査で上がった意見等を定期的に振り返る機会を設ける。

(3) 運営委員会

結果の概要

- 5月、10月、2月の年3回実施した。希望の家深大寺運営委員会との合同開催とした。

実績等

調布市希望の家運営委員会委員構成

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日（敬称略）

	氏名	選出区分
委員長	日比生 信義	地域関係機関（石原小学校地区協議会）
委員	夏目 純一	市民有識者
委員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委員	菊池 利恵子	希望の家家族会
委員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会

委員	渡辺 哲男	関係機関（調布市社会福祉事業団）
委員	能登 和子	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委員	山田 亜里沙	調布市福祉健康部障害福祉課係長
委員	田中 賢介	社協評議員
委員	橋本 ゆかり	社協理事

※希望の家深大寺運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

令和6年度 調布市希望の家及び希望の家深大寺合同運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第1回	5月29日	令和5年度事業報告、決算報告、希望の家3施設の近況報告	11人
第2回	10月30日	令和6年度上半期報告(コンサルテーション事業含む)、令和7年度予算案等について	13人
第3回	2月26日	第三者評価の結果報告、令和7年度希望の家事業計画(案)について、令和7年度予算について	11人

分析・課題

- 事業内容、職員育成、予算案など、各委員より様々な視点で意見をいただき、運営に反映させた。
- 希望の家の行事に参加していただける委員もいらして、地域の方々と互いに助け合える関係作りを更に広げていきたい。

(4) 職員の資質向上

結果の概要

- 3施設合同の希望の家職員研修では、初めて自閉症コンサルテーションの講師による、自閉症の理解と知識習得の講義を数回受けて、対象となる利用者を施設現場でアセスメントし、関係者会議の開催、構造化への取り組みと実践、見直しなどがあった。

実績等

研修会等	主催
防火・防災管理新規講習	東京消防庁
福祉職場で生かすアンガーマネジメント研修	東京都社会福祉協議会
強度行動障害支援者養成研修(基礎)(実践)	東京都社会保健財団
福祉現場における会議ファシリテーション入門	東京都社会福祉協議会
東京都社会福祉協議会新任職員研修	東京都社会福祉協議会
福祉職員初任者研修、マナー研修	調布市福祉人材育成センター
行動援護従事者養成研修	調布市福祉人材育成センター
普通救命講習(AED)	調布市社会福祉協議会

分析・課題

○自閉症コンサルテーションを受けて、利用者が確実に変容し、職員間でも支援についての考えが深まり、話し合う土台ができあがった。令和7年度も、職員チームによる、他施設への現場見学や報告会、更なる再構造化への取り組みなどを推進し、職員の専門性に磨きをかけていきたい。

(5) 事業・建物管理

○調布市障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。

(6) 危機管理体制の整備

結果の概要

○衛生推進者を設置し、法人の衛生委員会に出席すると共に、衛生管理や環境整備に努めた。

○毎月1回程度、火災や地震を想定して、点呼・避難訓練を実施した。自衛消防訓練として、消火器の使用方法を職員会議で確認した。

○自然災害発生時及び感染症発生時におけるBCP計画を策定した。

9 地域への働きかけ

結果の概要

○地域の住民や子どもを対象とした工作教室を初めて開催し、近隣の小学校が振替休日の月曜に実施した。準備から当日もボランティアスタッフの協力も得ながら、「くるくる希望の虹」を子どもや高齢者と一緒に作ることができた。

実績等

活動名	内容等
工作教室	2月10日に実施し、地域の方々が来所した。
季刊誌の配布	施設周辺地区の民生児童委員、自治会、公共施設等に配布した。
小地域交流事業への参加	富士見町地域、入間町地域の行事にそれぞれ自主製品の出店等で参加した。
災害時の地域貢献	災害時については、障がい者等に配慮した避難場所としての施設活用を市と協議している。
会議室(本場2階)の貸し出し	地域住民への貸し出しを実施した。

分析・課題

○本場での工作教室は、初めて2月に開催した。小学生の来場を想定したが、未就学児や高齢者の比率が多かった。令和7年度もさらに創意工夫し、多くの地域住民に親しまれる施設行事を企画していく。

10 その他

(1) 個別支援・日中活動の充実

結果の概要

- 個別支援計画に基づき、利用者の年齢や体力面、特性に応じた、きめ細やかな計画で日中活動や作業を行った。モニタリングで個別支援計画の振り返りを行い、利用者や家族との面談、訪問、電話での対話を実施した。
- 関係機関と互いに連絡調整をしながら、医療・健康面の情報共有、新しくグループホーム利用が開始する人への支援について共通理解をはかり、送迎の調整など、細かく丁寧に対応した。
- 令和5年度同様、本年度も「手づくり展」をたづくり11階みんなの広場で開催した。関係者のみならず、一般の市民も見て頂く機会を作ることが出来た。
- 1日かけてグループ外出し、外食をするリフレッシュ活動の再開、日常でも近隣への買い物などの機会を多く作ることができ、利用者の楽しみが増えた。
- 令和5年度に引き続き、調布市が電気通信大学、NTT東日本、NTTe-Sportsと協働して実施している「eスポーツを基点とした包摂的な市民交流体験機会の創出事業」に協力し、希望の家3施設間やしばさき彩ステーション、調布市子ども・若者総合支援事業ここあなど外部の施設と希望の家分場をオンラインでつなぐeスポーツ交流事業に参加した。

分析・課題

- 他の福祉サービス（相談支援、ショートステイ、ヘルパー、グループホーム等）との連携を強化し、医療情報も共有しながら、利用者・家族の思いを尊重し、安心して話し合える関係性を維持していく必要がある。
- 利用者家族の高齢化が著しいため、家族の体調面も含めた相談や配慮が必要となる。また、親亡き後も見据えた、兄弟姉妹・後見人との連携をしっかりと行う必要がある。

(2) 広報

結果の概要

- 個人情報保護を徹底するため、広報紙等での写真の利用は本人及び家族の同意を得た上で行った。
- 令和6年度は季刊誌を3回発行し、利用者の手書き文字や感想を取り入れた。また、写真をふんだんに使い利用者にも見やすいよう紙面を工夫した。
- 施設ホームページは、写真を増やすなど、随時更新を行った。
- 本場では屋外に掲示板を取り付け、近隣の人へ活動や雰囲気や伝わるよう工夫した。

実績等

種 類	回数／内容
月のお知らせ	月1回／利用者・家族・関係者向けの予定表とお知らせ
季刊誌	年3回／行事や活動、販売会の売り上げ報告等
ホームページ（社協ホームページ内）	随時更新をした。

分析・課題

- 季刊誌の紙面については、担当者間の打ち合わせで創意工夫し、カラフルで明るい紙面とした。
- 地域住民への施設理解を広めるために、ホームページにて季刊誌を閲覧できるようにする等、積極的にネット媒体も活用した。

(3) ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

結果の概要

- 引き続き、近隣のボランティアに利用者支援や作業・活動をサポートしていただいた。
- 希望の家分場では手芸が得意な近隣住民の方とのつながりが新たにでき、利用者が作成した刺繍や編み物を自主製品に仕立ててくださる取り組みがスタートしている。
- 大学生等の実習受け入れは積極的に行い、慈恵医科大学の医学部生、社会福祉士等の現場実習を受け入れた。

実績等

行事・活動	人数	内容
織物・刺繍製品仕立て	1人	縫製
日中活動	5人	作業補助等
園芸作業	1人	作業の手伝い、園芸
体操教室・音楽教室・作業療法・ジャンベ教室・アート教室・パソコンプログラム	7人	教室講師等
慈恵医科大学及び社会福祉士実習生	7人	
府中けやきの森学園からの実習生	0人	
合計	21人	

第2 希望の家深大寺管理運営

番号	事業名	財源			
		自主 他	補助 市都	委託	利用 ○
(2)	希望の家深大寺管理運営事業				○

結果の概要

- 昨年度において4年ぶりの再開となった地域のつどいを、コロナ禍以前と同様に土曜開催とした。
- 自閉症・強度行動障害者支援の専門家によるコンサルテーションを受け、日ごろの支援の在り方を再構築し、職員全体の支援の質向上に努めた。
- 日帰り旅行、リフレッシュ活動、月1回のお楽しみ活動等において、職員体制にも配慮しながら、各利用者にとって楽しめる取り組みとなることに重きをおいて、企画・実施していくことに努めた。
- 毎日の支援の振り返りミーティング、定例でのグループ会議、全体会議等を通して、職員間での認識の共有を深めるとともに、お互いに意見出しやすく風通しの良い職場となるよう努めた。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者の生活課題に対しても家族や関係機関と連携しながら取り組んだ。

1 利用人数

結果の概要

- 4月1日より新規利用者が3人入所しているので、利用者19人でスタートした。

実績等

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
利用人数(人)	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19		19人
開所日数(日)	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	243	20.3日
のべ出席人数(人)	346	351	331	366	315	311	359	331	329	300	295	323	3957	329.8人
出席率(%)	87	88	87	88	79	86	86	87	87	83	86	85		85.7%

利用者年齢構成等（令和7年3月31日現在）

年齢	男	女	小計
～19歳	3人	0人	0人
20～29歳	6人	4人	10人
30～39歳	3人	1人	4人
40～49歳	1人	0人	1人
50歳～	1人	0人	1人
計	14人	5人	16人
平均年齢	22.0歳	26.6歳	29.0歳

利用者障害支援区分構成（令和7年3月31日現在）

障害支援区分	希望の家深大寺		
	男	女	合計
区分1～4	1人	0人	1人
区分5	6人	1人	7人
区分6	7人	4人	11人
計	14人	5人	19人

※内、重度支援対象者5人

※内、重度支援対象者9人

※平均支援区分5.5

2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

- 専門講師によるダンス教室、音楽教室、ジャンベ教室、水泳教室、作業療法活動において、各利用者が参加しやすいよう、グループ構成、活動時間等にも配慮して行った。
- 各利用者に対して、通所された日にはウォーキングや外出等で何かしら体を動かせる機会を提供できるようにした。
- イベント外出は各利用者のニーズに合ったものになるよう、多様性ある選択肢を用意した。

実績等

定例活動	回数／内容
ダンス教室	月2回・1時間×2チーム／講師によるストレッチ運動やダンス

音楽教室	月2回・1時間／講師のピアノ伴奏による合唱・合奏
ジャンベ教室	月2回・1時間／講師による打楽器の自由演奏
水泳教室	月1～2回程度（5、6、9、10月）・40分×2チーム／講師による水泳活動
作業療法活動	月2回・1時間×2チーム／講師による創作及び運動機能維持等の活動
ウォーキング	1人週2回以上／近隣及び公園等での30分～1時間程度の散策
美化活動（公園清掃）	1人週1回程度／施設周辺及び指定公園の清掃活動
ミニ調理	月1回程度／昼食及びデザート程度の簡単な調理活動
入浴活動	希望者月2回程度／身体整容と気分転換を兼ねて施設内浴室で実施

イベント活動	実施日／内 容
日帰り旅行（バスハイク）	10月18・25日／2回に分け、葛西臨海公園に行った。
リフレッシュ活動	1人2回・夏と冬に実施／目的別に小グループでの1日外出活動を実施
運動会	10月11日／パラスポーツセンターにて福祉作業所等連絡会の運動会に参加
音楽鑑賞会	11月8日／プロミュージシャンによるサクソとアコーディオン演奏
地域のつどい	11月2日／地域の方との交流機会として、久々の土曜日開催
作品展示会	2月20～26日／たづくりみんなの広場にて「希望の家手づくり展」を実施
年度末お楽しみ会	3月26日／希望の家深大寺でボランティアの協力を得ながらバーベキューを実施

分析・課題

- 利用者の興味・関心、体力面、特性・相性に応じてグループ分けをし、各種活動の提供をした。より積極的に参加できるよう、活動提示の仕方や環境づくりの検討が必要。
- 職員と各教室講師との交流が少なく、お互いの意図を確認し合う場面が足りなかった。日頃からのコミュニケーションや定期的な振り返り・意見交換等が必要。

3 生産活動

結果の概要

- 企業からの受注（ワッシャーの検査・採便管の封入・ゴルフボールの削り作業）により、年間を通して比較的安定した作業量を確保し、利用者に作業活動を提供した。
- 毎週2回、古紙回収作業を実施した。
- 調布市福祉作業所等連絡会の共同受注により、ふくしの窓のポスティング作業を実施した。
- 調布市希望の家が受注している公園清掃を一部協力して行った。
- 調布市より受託し、地域活動情報誌「じょいなす」の封入、封緘作業を実施した。
- 施設敷地内で栽培したラベンダーを使用し、ポップリ・バスソルトを作成。自主製品として販売した。

実績等

企業等からの受注	ワッシャーの検査、採便管の封入、古紙回収、ゴルフボールの削り
作業所等連絡会の共同受注	ポスティング（ふくしの窓）（スマホ教室チラシ）
調布市からの受注	地域活動情報誌「じょいなす」のポスティング

分析・課題

- 利用者それぞれに合わせた作業工程を工夫することで、日常的に取り組める活動として作業活動を提供することができた。
- 企業等からの受注作業だけに頼ることのないよう、施設内で行う新たな活動も創出されているが、まだ安定的なものではない。販売可能な自主製品作成含め、引き続き検討が必要。

4 昼食提供

結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食に対応して提供した。
- お楽しみとして月2回の出前（テイクアウト）や、ミニ調理（お楽しみ調理）を実施した。
- 「ミニ調理」では、自身が食べる分の一工程を各利用者が担えるように手配し、マスクやビニール手袋の着用が可能な利用者に関り、全体の準備工程から入ってもらうようにした。

実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食。
テイクアウトの実施	月2回／近隣の飲食店から選択制で注文を取りテイクアウトを楽しむ。
ミニ調理	月1回程度／ピザやお好み焼き、ハンバーガーを調理して食べた。

分析・課題

- キャンセル時に発注数が合わなくなることもあったため、発注集計表を掲示し、数の変更をした際にはそこに追記することで、全職員がいつでも確認できるようにした。当日キャンセル含め、発注数の変更状況が相互で確認が取れるようになったことで間違いが無くなった。

5 健康診断・健康管理

結果の概要

- 健康相談を5回実施し、必要に応じて医師からの助言を利用者家族と情報共有した。
- 健康相談には家族の同席を勧め、その際の相談から、家庭での課題を共有する機会となった。
- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、年間を通して利用者の状態推移を把握した。
- 看護師による月1回の健康チェック時以外にも毎朝の検温を実施した。また、状況によっては血圧測定や血中酸素濃度の測定を行い、利用者の体調変化の把握に努めた。
- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、歯科受診等の助言を受けた。
- こまめな手指消毒の促しや施設内の換気等を行った。また、人の手が触れる箇所や共有使用される物品等を適宜、消毒清掃した。
- 災害時に備えて、1日分の薬を予備薬として預かっている。半期に一度、交換を行った（薬の形状によっては3ヶ月に1回）。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断①（多摩川病院） 健康診断②（嘱託医）	① 5月10日／施設内で身体測定、胸部X線、血圧測定を実施。 6月9日／40歳以上の利用者には上記検査に加えて、眼底、心電図、腹囲、骨密度検査を実施。 ② 5月20日／施設内で検尿（自宅にて採尿）、血液検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定（看護師）	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種。10月28日に施設内で実施。
歯科健診（調布歯科医師会）	6月18日に施設内で実施。
健康相談（嘱託医）	年5回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談およびアドバイス。

分析・課題

○令和6年度より、検尿と血液検査を嘱託医に依頼。健康相談で定期的に顔を合わせている嘱託医だったためか、よりスムーズに受検できた。今後も各利用者の特性に合わせた方法で行えるように配慮していく必要がある。

6 当事者活動の支援（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

7 送迎事業

結果の概要

- 希望する利用者に対し実施した。令和6年度は利用者19人中17人が送迎を利用した。
- ショートステイ等を利用する場合は、受け入れ先への送迎を行った。
- 利用者や家庭の状況によって、個別送迎に対応した。

分析・課題

- 各利用者の特性や相性等を鑑みながら、乗車位置や送迎ルートを設定しているため、ワゴン車4～5台使用し、内1台は2巡運行している。車内の安全・安心を保つために必要な対応だが、送迎に携わる職員が多くなってしまいう課題がある。当年度も添乗員を増員することができたが、引き続き運転・添乗の臨時職員確保が必要。
- ショートステイ事業所の「こげら」への迎えは、乗車場所が車の往来が多い道路での路肩駐車のため、状況により停車が困難な場合もあった。利用者のスムーズな乗車に至ることが厳しいようならば、乗車場所の見直しも必要。

8 運営管理業務

(1) 苦情や要望の受付と問題解決（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(2) サービス評価（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(3) 運営委員会（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

希望の家深大寺運営委員会委員構成

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日（敬称略）

	氏名	選出区分
委員長	夏目 純一	市民有識者
委員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委員	菊池 利恵子	希望の家家族会
委員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会
委員	矢田部 正丈	関係機関（深大寺北町山野自治会）
委員	森井 進次	関係機関（NPO 法人わかばの会）
委員	内藤 和男	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委員	山田 亜里沙	調布市福祉健康部障害福祉課係長
委員	田中 賢介	社協評議員
委員	橋本 ゆかり	社協理事

※調布市希望の家運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

(4) 職員の資質向上

結果の概要

- 横浜市発達障害者支援センターの神田氏によるコンサルテーションを受け、利用者1人をケースとして取り上げ、その方の支援再構築を神田氏伴走により進めた。その方の状況改善だけでなく、そこから学んだ知識や手法を随時共有していったことで、他の方の支援にも活かされるようになった。
- コンサルテーションの一環で、自閉症・強度行動障害理解のための職員全体研修を4回実施した。職員の共通理解を得る機会となった。
- 深大寺職員全員参加による外部講師を招いてのSST研修を実施した。いくつかの支援場面のロールプレイを通して、より具体的な支援のポイントの共有化が図られ、職員間の連携向上にも繋がった。
- その日の振り返りミーティングにおいて、事故・ヒヤリハット・にやりほっと事例などの共有を図り、日々、支援の見直しを全体で考えていけるようにした。

実績等

研修会等	主催
強度行動障害者支援のコンサルテーション	神田宏 氏
SST研修	清水有香 氏
虐待防止研修（内部全体研修）	日本障害者協議会

東京都区市町村社協新任職員研修・基礎研修	東京都社会福祉協議会
強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）	公益財団法人東京都福祉保健財団
障害者虐待防止・権利擁護研修（管理者コース）	公益財団法人東京都福祉保健財団
育成面談研修	東京都社会福祉協議会
調布市福祉作業所等連絡会学習会	調布市福祉作業所等連絡会
障害者施設等歯科保健研修会	多摩府中保健所
社会福祉事業従事者人権研修	東京都福祉保健局
専門研修（オンデマンド配信）	調布市福祉人材育成センター
福祉職員階層別研修（初任者・中堅）	調布市福祉人材育成センター
防火・防災管理新規講習	東京消防庁

※ 上記以外に、社協全体での研修等に参加

分析・課題

- 令和7年度も引き続きコンサルテーションを受けることで、さらなる質の向上を目指す。
- コンサルテーションの一環で行われた全職員参加の4カ月連続研修を受けたことで、繰り返しの学びがその認識を深めてより実践で活かしていけるようになった。今後も、一度きりの学びで終わりにするのではなく、随時職員間で学んだこと等を振り返る機会を設けていくようにしたい。

(5) 事業・建物管理

結果の概要

- 調布市障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。
- 各設備等の必要な定期点検を実施した。

(6) 危機管理体制の整備（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

9 地域への働きかけ

結果の概要

- 11月2日に地域のつどいを実施。自治会や近隣の福祉施設等に協力をいただき、模擬店の出店やゲームコーナーのほか、新しい試みとして恒例の音楽教室講師によるミニコンサートをオープニングに行い、エンディングではダンス教室講師によるストレッチとダンスを行った。
あいにくの天候ではあったものの、地域の方々や他事業所利用者など多くの方々に参加していただくことが出来た。
- 地域の自治会パトロールへの参加等、地域住民との交流を進めた。
- 北ノ台小地域交流事業の「ふれあいフェスタ北ノ台」の会場として施設を開放した。館内には利用者の活動で制作した作品も展示した。

分析・課題

○前述のとおり、地域のつどいでは新しい試みとして恒例の音楽教室講師によるミニコンサートをオープニングに、エンディングではダンス教室講師によるストレッチとダンスを行い、普段の教室活動の様子を知っていただく場面を設けた。普段積極的に参加しない利用者がマットに横になっていたり、集団の中に入ることが苦手な利用者が当たり前のように会場内で過ごすことが出来ていたり、楽しみを共有する中での相乗効果があったように思われる。

ボランティアとして、元職員や利用者家族、協力員の方など多くの方々に支えられて実施することが出来た。また、今後も利用者が活躍できる場面や、地域の方と一緒に楽しめる場面を多く作っていきたい。

令和6年度、数年ぶりに土曜日に開催した。連休初日であったことと平日開催に比べ集客は多く見込めるため令和7年度以降も同様の日程で検討。

10 その他

(1) 個別支援・日中活動の充実

結果の概要

- 利用者の年齢や体力、特性等に応じた個別支援計画を作成し、それに基づき日中活動等を行った。
- 令和5年度に引き続き、しばさき彩ステーション利用者と、調布市子ども・若者総合支援事業ここあ利用者とをオンラインで繋ぎ、eスポーツ体験交流会でリズムゲームを行った。(調布市、電気通信大学、NTT東日本、NTTe-Sportsの協働による「eスポーツを基点とした包摂的な市民交流体験機会の創出事業」)
- 自分で稼いだ工賃を使って買い物など好きなことをする「お楽しみ活動」という名目で、個別活動の機会を順次設けていった。
- 状況に応じて個別送迎を行った。また、家庭の事情に合わせ延長利用にも対応した。

分析・課題

- eスポーツはその後、日ごろの活動にも令和5年度より多く取り入れた。ゲームが好きな利用者の個別活動としても実施。
- 利用者個々の能力・状況に合わせた安定的な個別活動として「自立課題」を提供した。その利用者の能力、得意なこと・苦手なこと等についても改めて考えるきっかけづくりともなった。引き続き、「自立課題」の制作にも取り組んでいく。

(2) 広報(調布市希望の家と共通)

※調布市希望の家の該当項目参照。

(3) ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

結果の概要

- ボランティアや協力員に、利用者支援やプログラム活動のサポートをしていただいた。市民が関わることにより、新たな視点を見つけることや地域での理解者を増やすこととなった。
- けやきの森学園からは3人の実習生を受け入れた。

実績等

行事・活動	人数	内容
水泳教室	1人	利用者の付き添い
日中活動	1人	利用者の付き添い等
園芸作業	1人	園芸
水泳・ダンス・音楽・ジャンベ教室講師	5人	専門協力員
社会福祉士実習生	0人	依頼なし
府中けやきの森学園からの実習生	3人	
合計	11人	